

ああ青春の歓喜を

(大正十五年寮歌)

木村左京君 作歌
牧野千代治君 作曲

一

ああ青春の歓喜を
宴の酔ひと言ふは誰れ
我が行く方の遠ければ
しばしこの舎に憩ひして
草を茵の旅枕
明日の旅路を夢に見ん

二

曠野に萌ゆる若草の
しらべゆかしき喜びを
そよ吹く風に寄するとき
うららかに照る春の日は
霞の奥にまどろみて
光の波は野に充てり

三

故郷の空は見えねども
ただ野は広く路遠し
彼方の国に孜々として
歩みつづくる行人は
行手の空に湧き出づる
光の雲を如何に見る

四

望の光見えざれば
世は永劫に常闇か
我が清純の魂の
撓まぬ旅は麗しく
頑迷の徒も起き出でて
我等の群に加はらん

五

あはれゆかしき人の世や
夜ふけの街を歩みつづ
遠き北斗の星を呼び
友も歌へば我も和し
来るはここぞ森の奥
光まばゆき自治の燈